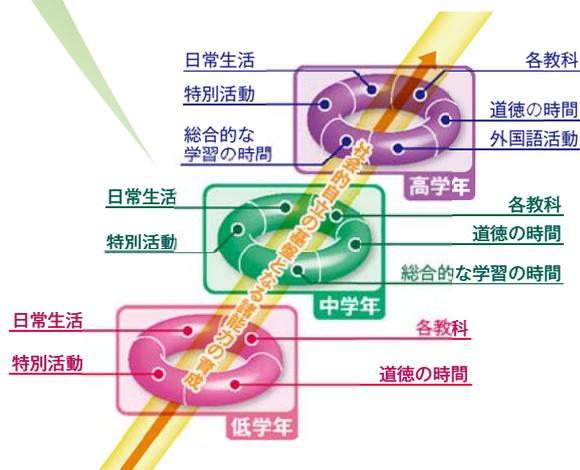


中学年

自分と 友だちと みんないっしょに

友達のをさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できる
ようにすることが大切です。

中学年の発達課題と実践のポイント



(1) 友達と協力して活動する中でかかわりを深めるために

低学年段階で個の学校生活への適応を果たした中学年の児童は、集団で物事に取り組もうとする姿が見られる。そのような姿を生かしながら、友達づくりや集団の結束づくりを大事にしたい。当番活動や、清掃、異学年集団活動など、学校生活の様々な場面で、自分たちで決まりをつくって守る姿を育てる必要がある。きまりを守ることで、周囲から認められ、集団の結束力も高まる。また縦割り行事や所属クラブの決定、地域清掃など、特別活動では協力し合える人間関係を築く態度を育てる必要がある。

道徳では、社会科の「安全なくらしとまちづくり」の実践例に合わせて、「生活を支えている人や高齢者に、尊敬や感謝の気持ちをもって接する」(2-(4))の主題を実践するなどして、警察署見学の体験をもとに、実感を伴った指導となるように心掛けたい。



【発達課題を踏まえたねらい】

- 自分の生活を支えている人に感謝する。
- 友達の気持ちや考えを理解しようとする。
- 友達と協力して学習や活動に取り組む。
- 働くことの楽しさが分かる。
- してはいけないことが分かり自制する。

(2) 自分の持ち味を発揮し役割を自覚するために

中学年の時期は、物事に一生懸命に取り組める時期でもある。日常生活では日直や係、朝の会や帰りの会などの中で、自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり遂げる姿勢を培ったり、自分のやりたいことや良いと思うことなどを考えて進んで取り組む姿勢をはぐくんだりすることが大切である。

集団活動を指導原理とする特別活動では、自発的な活動への欲求の高まりなどを積極的に生かしたい。特に学級活動では話し合い活動を通して、集団決定をしたり、集団思考の後に自己決定をすることにより、集団における自分の存在を認識し、自分の持ち味や役割を自覚させたい。

「自分の長所をのばす」(1-(5))の実践例のように、道徳では自分のよいところを見つけ、将来の夢や希望をもたせるような指導を心掛けたい。

各教科の場面では、「自由研究『出かけよう科学の世界へ』」の実践例のように、各教科での学習が日常生活や将来の生き方と関連していることに気付かせる機会を積極的に設け、学ぶ意欲につなげたい。

総合的な学習の時間では、探究的な活動を通して、地域の人々の暮らしや生き方を学ぶ機会を設



けることが重要である。「お店体験をしよう」の実践例のように、地域の人との協働的な体験活動を多く取り入れ、色々な職業や生き方があることが分かるようにし、互いの役割や役割分担の必要性が分かるようにさせたい。



【発達課題を踏まえたねらい】

- 自分のよいところを見付ける。
- 友だちのよいところを認め励まし合う
- 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。
- いろいろな職業や生き方があることが分かる。
- 係や当番活動に積極的にかかわる。
- 互いの役割や役割分担の必要性が分かる。
- 将来の夢や希望をもつ。
- 計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。
- 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。

《総合的な学習の時間》 地域とつながり，視野を広げる

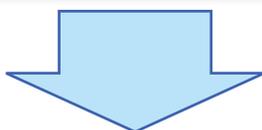
単元名 お店体験をしよう（第3学年）

ねらい

- お手伝い体験にむけて，1回目のめあてと比較しながら，2回目のめあてを考えることができる。
- 地域の商店街で働く様々な人とのかかわり合いを通して，自分たちが住む地域へ愛着をもつことができるようにする。
- お手伝い体験を通して，適切な言葉遣いで話したり接したりできるようにするとともに，お店の方の思いや願いを考えることができる。

本実践とキャリア教育

地域に根ざした学習は，どの学校でも行っていると思います。ここでは，その学習をキャリア教育の視点で見直すことで，ねらいが明確になり，体験活動を一過性のものとして終わらせるのではなく，自己有用感の獲得や，働くことや学ぶことへの意欲の向上につなげることができます。



全体構想

主な学習活動	時数
○どんなお店があるのか調べよう ・お店の方へのインタビューをしてお店マップづくりをする。	5
○お手伝い体験の準備をしよう ・上級生に体験インタビューをする。 ・お手伝いするお店を選び，体験のめあてを考える。 ・お店の方と事前の打ち合わせをする。 ・模擬お手伝い体験を教室で行う。	7
○お手伝い体験に行こう（1回目） ・自分のめあてを意識して言葉遣いに注意しふさわしい態度で活動する。	2
○お手伝い体験を振り返ろう ・お手伝い体験を振り返り，お店の方の思いや願いを考えて，感謝のお手紙を書く。 ・お手伝いの内容，お客さんやお店の方の様子について吹き出しに書いてまとめ，交流する。	2
○2回目の体験の準備をしよう ・体験をするお店を決めて，1回目の体験と比べながら2回目のお手伝い体験のめあてをもつ。（本時） ・言葉遣いや態度を考えてお手伝い体験のお願いに伺い，準備するものや心構えなどについて聞いてくる。	4
○お手伝い体験に行こう（2回目）	2
○お手伝い体験を振り返ろう（2回目） ・1回目の体験と比べながら，自分ができるようになったことや，仕事について考えたことを交流し合う。	2
○2年生に伝えることをまとめよう ・「お手伝い体験」だけでなく，単元全体の流れをお店マップにまとめる。	3

〈道徳〉
2-(1)
礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接する。

3-(2)
働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働く。

〈社会科〉
「見直そうわたしたちの暮らし」

〈特別活動〉
感謝の気持ちを表そう。
・お礼の仕方を考え，「ありがとうコンサート」の計画をたてる。
・「ありがとうコンサート」を開く。

《本時のねらい》

2 回目のお手伝い体験のめあてを考えることを通して、お店の人の思いや願いを知る。

《展開》（17/27 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 1 回目のお手伝いのめあてを振り返る。 ・大きな声で挨拶をする。 ・ふざけない。 ・お店の人の言うことを聞く。 お店の人の思いを知り、2 回目のめあてを考えよう	○1 回目のめあてが達成されたか、あらかじめアンケートを取り、必要に応じて提示する。 
展開	2 ビデオを見て、お店の方の思いを感じる。 3 お店の方のゲストティーチャーからお話を聞く。 4 2 回目のお手伝いのめあてをカードに書く。 ・分からないことがあったら質問する。 ・お店の人の動きに注意して、できそうなことは進んでする。 ・お店の人といろいろな話をする。	○ビデオを用意しておく。 ◎なぜお店の人は、自分たちを受け入れてくれているのかを考えるように投げかける。 ☆お店の方の思いや願いを知り、進んでめあてを立てようとする。
まとめ	5 カードに書いたことを、交流する。 ・みんな、1 回目よりめあてが高まっているね。	◎地域の人が、自分たちのためにしてくれていることに応えられるように、話をする。

実践のポイント

地域の教育力を生かしましょう

- ・「お店体験＝キャリア教育」ではありません。各地域では農業や水産業、工業、商業など特色ある産業に携わっている方がいらっしゃると思います。ここでは、商業を中心とした展開を考えていますが、それぞれの地域産業の特色を生かした実践を行うことが重要です。その道に励んでいる素敵な人との出会いを第一に考えましょう。
- ・地域の教育力を生かすためには、事前の調査・挨拶・依頼、そして、事後のお礼をしっかりとすることが大切です。管理職を交えて、地域の方への挨拶などに何うようにしましょう。

探究の過程の連続を意識しましょう

「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究の過程が、1 回目のお店体験と2 回目のお店体験で、連続し高まっていくことを意識して学習を組み立てることが大切です。ここでは、課題の設定について、1 回目では、基本的な挨拶や基本的なコミュニケーションについてめあてを立てるようにしています。2 回目では、自分たちで依頼に行ったり、仕事のこつなどを気付くように心掛けたりすることにめあてを変化させます。

《特別活動・学級活動》 自分の役割を遂行することを自

題材名 進んで働こう(第3学年)

ねらい

働くことの意義を十分に理解し、学級生活に貢献していることが実感できるようにする。

本実践とキャリア教育

本実践は、学級活動の内容(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」に当たります。

人は自分の興味のあることや得意なことを生かした職業に就きたいと願い、そのためには努力をしなければなりません。労働による自己実現は、いやなことや辛いことから逃げていては果たせません。当番活動は集団生活である学級を円滑に機能させるために不可欠な活動です。自ら選んだ係活動とは異なり、否が応でも与えられる職務を果たさねばなりません。その意義を自覚し、自分の役割を遂行しようと自己決定させる本実践は、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、児童の成長や発達を促進するというキャリア教育の「視点」からも、大切な活動と言えるでしょう。

本実践は、役割把握・認識能力に重点を置き、さらに実生活において役割遂行能力を高める指導を展開するものです。

全体構想

〈道徳〉

4(2)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。

本実践

学級活動内容(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」

題材名「進んで働こう」

- 当番活動によって学級生活が円滑に機能することを理解させる。
- 自分に与えられた当番活動に責任をもち、役割を最後までしっかりと遂行していくことを自己決定させる。

〈当番活動〉

- ・日直
- ・給食当番
- ・掃除当番

心のノート

日常生活における当番活動の中で役割遂行能力を高めるための指導を展開する。
☆自己評価・相互評価により自己決定した実践内容を振り返らせ、より一層、進んで働くことに取り組ませる。

家庭生活における役割(お手伝い)を果たす。(保護者との連携)

係活動においても、計画的に最後まで取り組ませる。

己決定させる

《本時のねらい》

当番活動の意義を理解させ、進んで働こうとする意欲をもつことができる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 <small>配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)</small>
導入	1 問題を共有化する。	○主に教師による司会進行 ○アンケート結果の発表は計画委員による。
	<p>事前アンケートの発表</p> <p>Q1：あなたは、日直、給食当番、掃除当番の仕事をさぼることなく、最後までしっかりと取り組んでいると言えますか。 はい(15名)・いいえ(8名)</p> <p>Q2：3年1組では、だれもが日直、給食当番、掃除当番の仕事をさぼることなく、最後までしっかりと取り組んでいると言えますか。 はい(9名)・いいえ(14名)</p> <p>T：この結果から、何がわかりますか？</p> <p>・自分ではしっかりとやっているつもりでも、人を見るとやっていない人がある。 ・Q1で「いいえ」と答えている人があるから、全員が当番をちゃんとやっているとは言えない。</p> <p>T：今のままでいいか？</p> <p>・やっている人とやっていない人の仲が悪くなる。 ・教室が汚くなったり、給食が始まるのが、もっと遅くなる。等々</p> <p>T：自分はどうする？</p>	
展開	2 解決策を検討する。	<p>T：人がいやがる仕事を進んでやろうとしている。素晴らしい！</p> <p>☆自らの役割を遂行しようとしたり、他の仕事へ惜しみなく協力しようとする。</p>
	3 実践への自己決定をする。	◎短冊に書き、発表することで明確な自己決定ができるようにする。
まとめ	4 教師の話を聞く。	

実践のポイント

集団思考の過程を重視しましょう

他者の意見に対する自分の意見を述べさせることで、よりよい自己決定につなげていきましょう。

自己決定を個人としての実践につなげていきましょう

自己決定した実践内容に取り組む意欲を育みます。短冊は教室に掲示し、帰りの会で自己評価させたり、相互評価させたりしながら、実践できている児童は全員で讃えるなどの意欲付けをしましょう。

《国語》 言葉によるコミュニケーション能力を高める

単元名 調べて発表しよう(第4学年)

ねらい

○話すことに関する指導事項

- ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

○聞くことに関する指導事項

- ・話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

本実践とキャリア教育

言語に関する能力は知的活動の基盤であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤になることから、新学習指導要領においては国語科のみならず、各教科等においてもその育成を重視しています。

本実践は、「言語による双方向性のコミュニケーション能力」と解釈し、国語科で実践・検証されたものであり、新学習指導要領における第3学年及び第4学年の「A話すこと・聞くこと」の指導事項と言語活動例の具体化を図っています。

また、目的に応じて発表したり聞いたりするためのポイントを主体的につかめるようモデルを効果的に用いた指導を工夫しています。

全体構想

言語による双方向性のコミュニケーション能力 A話すこと・聞くこと

話し方

- 論の展開の仕方 ○発表原稿の作り方
- 具体物（資料）提示の仕方
- 適正な声の大きさ、抑揚の付け方、速度、間の取り方
- ボディランゲージの方法 等

聞き方

- 聞き取りメモの取り方
- 話題を深める質問、感想の述べ方

双方向性

教科書資料「手と心で読む」(点字に関する文章)を読む (1)

もっと知りたいこと、確かめたいことを取材する (3)

発表のモデルを学び、自分の発表原稿を作る (2)

発表会を開き、言語によるやりとりを行う (3)

《本時のねらい》聞き取りメモや質問，感想のモデルを参考にし，目的に応じて話の中心に気を付けて聞くことができる。

《展開》(7/8 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 前時の復習と本時の確認をする。 T：前の時間では，発表する時の原稿の書き方を学びました。「中村さん」の原稿を参考にして，皆さんもお友だちに伝わりやすいようにポイントを書き足して，発表の準備をしました。今日は，発表の聞き方について勉強します。 *「中村さんの発表原稿」(資料p.177 参照)	
	2 友達の発表内容をよりよく理解するための聞き取りメモの書き方を知る。 T：もう一度，中村さんの発表を聞きます。発表を聞いた後の交流で，質問や感想が言えるようにメモを取りながら聞きましょう。	◎聞くこと→質問・感想がコミュニケーションの始点となることを説明する。
展開	T：「山田さん」というお友だちが書いた聞き取りメモを紹介します。自分のメモとどこが違うか，発表してください。※「山田さんの聞きとりメモ」(資料 p.173 参照) 【予想される児童の反応】 ・短い言葉で書いている ・記号を使っている 等	◎「中村さん」の発表を録音したテープを流す。
	T：「山田さん」はなぜこのようなメモの取り方をしたのか考えてみましょう 【予想される児童の反応】 ・あとでメモを見て感想が言えるように，自分が聞いて大事だと思った言葉だけを短くメモした。 ・メモばかり取っただけでは聞く方に集中できないので記号や短い言葉でメモした。	
	3 質問や感想の述べ方を知る。 T：「山田さん」は，聞き取りメモを使って，感想と質問をします。それに対して「中村さん」が答えます。よく聞いて下さい。	*「山田さん」の感想と質問，「中村さん」の回答のテープを流す。(資料p.177 参照)
	T：「山田さん」の感想と質問の仕方のよいところを考えてみましょう。 【予想される児童の反応】 ・中村さんの発表の仕方のよい所を述べている。 ・疑問に思ったことを質問して中村さんが伝えたいことをよりよく理解しようとしている。	
まとめ	4 ミニ発表会を行う。 T：友達がどんなことを調べたのか知るために発表し合い，質問や感想を出し合ってください。	☆発表→感想・質問→回答の双方向性のコミュニケーションを成立させることができる。 ◎伝え合うことの喜びを確認させる。
	5 教師の話聞く。	

実践のポイント

日常生活で，中心に気を付けて聞くことを積み重ねましょう

聞きながら同時にメモを書く要領は，帰りの会で連絡帳に持ち物や連絡事項を書かせる際に指導します。

友だちの発言に対して必ず自分の考えを述べる習慣を大切にしましょう

教科の授業をはじめ学級会等で意図的にコミュニケーションを取る場面を設定しましょう。